

### 池田文書の研究 (三十)

竹山屯の書簡について (その三)

#### 池田文書研究会

二二 竹山屯 (二八四〇—一九一八)

33 明治 (二〇代) 年月日 (一九〇七号)

(本文欠)

□齋先生翰侍史御中

□<sub>屯</sub>□<sub>屯</sub>

二白、豚尾等毎度蒙御教諭、且ツ度々罷出蒙御厄介御懇情不淺奉拜謝候、乍憚御隱居様奥様へ宜敷玉声奉煩上度候、旧冬如何敷品ニ御坐候得共、鮭之塩漬差上候処、少々時節早く相漬、直航之便船ニ差上心組之処、航海殊之外日数ヲ費、定て味ヲ損候半と奉存候、御容捨被下度候

一、御多事申中拜願仕候も恐縮千万ニ御坐候得共、後來之資本と兼て貯置候少々之金禄公債追々当籤ニ相成候得ハ、右代トシテ鉄道株又ハ郵船株三千か五千円斗相求度候間、乍憚堀越也御依頼被成下度御願申上候、金員ハ預差上候ても右品無有も不相分候ハ都合悪敷事ニ奉存候、一月切ニて御

求被下候ハ、電信ニても金高為御知被下候ハ、直二第四銀行支店へ電信為替也並為替也ニテ堀越へ宛差上候事ニ仕度候、右ニて御買入方御不都合之訳ニ御坐候得は、預金員差上置候ても宜敷御坐候得共、可相成ハ当下旬金之事ニ相成候得は都合宜敷御坐候、右等之株式も追々之騰貴ニて、殆極点とも可申景況ニ御坐候得共、旧冬以來金融引締候為か少々下向ニ相成候様被考候、何れも昨年之利益配当ニては尚六分以上ニも相成候様ニ奉存候、時価ニて宜敷御坐候間、御配慮之段奉希上候、草々拜白

34 明治 (三二) 年 一月 二日 (二八九四号)

恭賀新禧、客年中ハ御懇情被成下奉鳴謝候、尚本年も不相変御厚誼之程奉企望候、右は迎新之御祝詞申上度如此御坐候、恐惶謹言

竹山屯

明治廿二年一月二日  
池田謙齋□<sub>屯</sub>□<sub>屯</sub>

35 明治 (三二) 年 一月 三日 (二八九三号)

十九日之尊書唯今拜見、姉も追々快方之方ニ御坐候、御命之沃剥并ニ鉄剂も相用可申候

一、旧公債額面貳万円斗、此程御求候儀御願申上候処、追々騰貴仕候相場ハ承知仕居、不得已儀ニ御坐候間、廿四円位ニ御坐候ハ、相場故多少之儀ハ幾金ニても宜敷御坐候間、高ハ是非貳万円と申ニも無之、壹万五千円ニても宜御坐候間御求之程御依頼申上度候、壹万五千円ニ相成候ハ、五千丈ヶハ清水芳藏名宛、他ハ私之名前ニて御願申上候、右全員ハ弥御求被下候事ニ相成候ハ、幾日迄之贈金之事、一寸為御知被下候得ハ、電信又ハ銀行為替ニ差上申度候、御多事中御手数数奉恐察候、可相成ハ亀助様也直々為御知被下候て、金ハ直々堀越氏へ宛贈候様御手数省候様仕度と奉存候、幾重ニも宜敷御願申上候、唯今一泊他出掛、敏儀ハ尚三人相談之上否可申上候、草々奉復

一月廿二日

竹山屯

池田先生

36 明治( )年 一月二八日 (二九六五号)

発局 七四報 ニイガタ 一月廿八日 午七時三十分

字数廿字

着局 第四九号 本郷電信分局

技術ウ (返信料前納の印)

届 カンダ スルカタイ キタコウカ丁 九ハンチ

イケダ

出 ニイカタ カミヲヲカワマイ六ハンチ

タケヤマタムロ

ケンサイ ホリコシマスキチ ナツ カウサウサウバデ  
カイツムヘンジ

37 明治(二二)年 一月二八日 (二九三四号)

謹啓、時下嚴寒益御多祥御奉職被為遊奉大賀候、陳は過日以來不願御繁忙中御不似合之儀御願申上候処、早速堀越氏へ御依頼被成下、夫々御手配被下候段奉謝候、就ては金員差上置候様御伝言被下候二付、則本日金貳千百円第四銀行支店へ宛為替振込候、則為替券差上候間御落掌被成下度候、尚当月廿一日迄ニハ貳千円前後差上候心得ニ御坐候間、鐵道株又ハ郵船株之内売物有之、金員之延着又ハ少シ之不足も有之候ハ、御取替置被成下候様仕度候間、此段預御願申上置候、右御願申上度為替券入封乱禿御助誦被成下度候、草々頓首敬白

一月廿八日午後第二時

竹山屯

池田謙齋様

39 明治(二二)年二月三日 (一九〇三号)

謹啓残寒甚敷御坐候処、益御多祥奉賀上候、御多忙中先般以来不ト下方煩御手数奉拜謝候、八日付羽書ニテ五日送り千円為替券御落手被成下候由、又九日付ニテ郵船株四拾五株御購求被成下候由ニテ、代金受取書并二名義書替委任状雛形印鑑共御送り被下、則印鑑差上候(印鑑ハ三菱合併後株式相求候節も此通りニ致し本社へ差出し置候、尚又入用之儀ニ御坐候哉、既ニ本社ニ有之候ては再差出ニ不及儀ニテ不用ニ御坐候ハ、印形御塗抹廢紙ニ被成下度候)、委任状記名捺印差上候、此文中之四拾五株ニ之不明居候処ハ、代金ニテも記し候儀ニ御坐候哉、且名義書替其他と有之候其他とハ、書替之外ニ委任状候儀ニハ有之間敷斗奉存候、利益配当は是迄利札ヲ本社へ郵送、当地支店ニテ受取来候間、御含迄二一寸申上候、右株式名義替相済御落手被成下候ハ、乍御手数御封し御預り置被成下度候、県知事篠崎殿并ニ随行會計課長南部方貞と申もの持参之儀、兼て頼置候間達吉子日曜日ニも持参致被呉候様頼可申候間、是又御願申上度候、

一、入沢送り金不足之儀ハ從私直ニ為替仕候か、又ハ浅岡より取替相渡し候様可仕候間、先殘金丈ヶ入沢へ御渡し被成下度御願申上候、呉々も御繁忙中御手数奉謝上候、

一、十一日ニハ未曾有之御盛典ニ又以外之出来事、為国家誠ニ可惜事ニ御坐候、右ニ付ても嘸御混雜奉拝察曾、右御

返事迄忙中乍乱筆御助誦被成下度候、頓首敬白

二月十三日前十時

池田謙齋先生御侍史

竹山屯

40 明治(二二)年七月一日 (一九二二号)

一書謹啓仕候、酷暑之節御満堂様御機嫌能為在御坐奉賀上候、陳は本月八日附ニテ一封拝呈、郵船会社株式四拾五株求度ニ付、堀越氏へ御頼被成下度と御願申上候、九日付金千七百五十拾円第四銀行為替券并ニ株式買入ニ付、名前替委任状共入封書留ニテ壱十日朝差上候、然ルニ達吉子より之手紙ニテ承り候得は、先生并ニ奥様先日宮様之御随行ニテ伊香保へ御入浴被遊候由、最早御帰館被遊候半とハ奉存候得共、先日之書留状中ニハ右申上候為替券入封仕置候儀故、若尚彼地ニ御滞在被為遊候ハ、書状御開封、為替券御預り置也又堀越氏へ御廻し被下候也御取斗被成下度御願申上候、不足代金弍千円ハ廿一日比差上度心組ニ御坐候間、是亦重々乍御手数御願申上候、為替御落手被下候ハ、羽書ニテ乍憚憚一寸為御知被成下度候、

一、小兒共每度罷出蒙御高庇、難有奉拜謝候、右御願申上度候、兎角当地不順之氣候ニ御坐候、伝承仕候得は御地も近比ハ雨天多く、何方も洪水之噂ニ御坐候、折節時候御厭被遊候様奉祈上候、草々頓首

七月十五日

竹山屯

池田御隠居様侍女御中

49 明治(三〇以後) 四月六日 (一九四九号)

(封筒裏) 東京府神田区駿河台北甲賀町九番地

池田謙齋先生 翰侍史御中

(封筒裏) 新潟市上大川前通六番町 竹山屯

小書奉謹啓候、時下千紫万紅之好時節益御勇猛被為遊御起居奉拵賀候、陳は小生懇意之者にて当国南蒲原郡加茂上條村中津要吾、十数年来葡萄酒醸造ニ丹精ヲ凝し、熱心之効にて近年頗出来方宜敷得、隨て搬路も弘候ニ付、先生御試用之上相当之品と御認被成下候ハ、病後之虚弱貧血家適宜ニ飲用候得ハ健康ヲ増等之御称譽也數語御記し頂戴仕度懇ニ厚依頼ニ付、御迷惑之御儀とハ奉恐察候得共難默止、何卒單簡ニても御記し御附与被成下候ハ、本人之大慶ニ不過之儀ニ御坐候間、呉々も奉懇願候、恐々頓首敬白

四月六日

竹山屯

池田謙齋先生 翰侍史御中

51 明治(三〇以後) 六月一日 (一九三〇号)

六月七日并十五日之御尊書正ニ奉拝誦候、益御健全被為遊御起居奉拵賀候、陳ハおかすさま去月十一日御来港以来、毎月皮下注仕候処、十五日□□<sup>(註)</sup>十八日ニ全ク止、御食機□□<sup>(註)</sup>佳景ニ被為臥候得共、□□<sup>(註)</sup>引続注射仕候処、廿四日□□<sup>(註)</sup>針痕之指圧ヲ不去内□□<sup>(註)</sup>ヲ覺被惡寒、次テ発熱被成□□<sup>(註)</sup>廿八日より出血稍増、六月三日より減し五日、全ク止血仕候、十日朝皮下注後尚又惡寒吐気次テ発熱致、十二時比ハ四十度ニ昇候得共々鮮熱<sup>鮮</sup>、翌日ハ諸症去り翌々日より御食機も復候処、十二日より又々出血被成候ニ付、注射ハ引続施行、内用も二瓦ツ、差上置候処、一昨日より減シ、本日本比ハ殆止り候様子ニ御座候、兼て十分之防腐消毒拵後ハ別て注意、御持參ニ相成候麦奴丸ハ一旦少量之アルコールニ溶解致、蒸留水ヲ混し瀘過致候て煮沸して蒸発致候て貯置、三回分ツ、注射器中之ビン中ニ貯置、毎回注射器筒及針之内外モ五十倍之カルホン水にて洗浄仕居候(尤も皮膚ハ洗浄不仕候)得共、如何之機会ニハクテリヤヲ混し候ものか、両度有之候、大ニ心痛仕候、乍併外諸症ハ為差事も不被為在、腫瘤ハ内診不仕候得共、昨年之如外腹按診ニハ触不申候故、大ニ減少仕候様奉存候、何れ止血之上、御出京之儀拝承仕候、御本人様も御希望之御様子故、御道中之御都合從今考居申候、

一、七郎儀毎々蒙御配慮、殊ニ此程ハ御奥様御尋被成下、

色々戴候様子難有奉謝上候、助手施術後二熱も速ニ去り候よし安心仕候、十五日入沢より病院へ下女御遣之節、七郎明日切断致と申伝言有之候よし、兼て前回蒙御報知候膿腫周圍鋭匙剝離術ニ可有之と奉存候、右之結果如何御坐候哉、何れ施術後ハ又当分多少之発熱も可有之候半、四五固日之後ニ相成候ハ、粗相分可申敷と奉存候、其内来月初旬よりハ教師も旅行可仕候半、夫迄ニハ鎌倉大磯又ハ箱根辺へ転地ニても相成候様致度ものと奉存候、昨今ハ別て宮様御異例ニ被為在、朝夕之御拝診御多忙中毎度奉煩御報道難有奉存候、右ハ御礼旁御返事迄、禿筆御助誦被成下度候、乍楮末御奥様へもよろしく玉声奉煩上度候、恐々頓首奉復

六月十八日

竹山屯

池田先生御侍史

52 明治(三〇以後)八月二日 (一九二九号)

奉謹啓候、時下残炎酷敷御坐候処、御高堂益御多祥被為遊御起居奉拝賀候、陳は先般御出港之節、得拜謁候葡萄酒製造家中沢要吾、本月中出京得拜鳳候心得之処、昨今製造時期ニて離兼候ニ付、兼て懇願仕候赤酒之御評証以近藤氏御願申上度候ニ付、從拙厚御願申上候と懇ニ被及依頼、御迷惑之段ハ重々奉恐察候得共、相叶候ハ、単簡ニても一語之御高評を御附与被成下候ハ、本人永世之恩賜と深可奉感

荷候、右奉願上度、禿筆御叱誦被成下度候、恐々敬白

八月廿一日

竹山屯

池田先生尊閣下

尚々中沢要吾儀も来月中旬後迄ニハ出京、御礼ニ拝趨之都合ニ御坐候、御多忙御寸暇も被為在間敷候得共、其節は一寸御接眉御許容被成下度候、

一、七朗儀兩三日前之報知ニは、橋本君之命ニて隔日レソールの半身浴及毎日朝診察後十一時比迄椅子ニて園中へ出し遊禮為致、丁字杖ニて室内を散步為致歩行之稽古ヲ試居、他ハ異常も無之趣、未同君後來之御意見も不承候得共、尚二三周日之後其辺も相分候半、其模様次第ニて来月中ニ出京、積御礼可申上心組ニ御坐候、拜具

53 明治(三五)年二月三日 (一九四五号)

本日廿日付之尊書正ニ奉拝誦候、時下寒天候御満堂様御健全御起居、殊ニ先般は御婚儀も御首尾能被為済、無御安心奉恐賀候、其節恥入候粗品祝賀之印迄ニ拝呈仕候処、煩御礼詞却恐縮仕候、此度は御祝品之鶴之子遠路蒙御惠贈、難有正ニ拝戴仕候、荊妻より厚御礼申上候様ニ申出候、最早餘者も無之、折角最仕舞芽出度御迎陽奉祈上候、乍憚御

隠居様御奥様へも宜敷御礼之玉声奉煩上度候、早々頓首敬具

一二月廿三日

竹山屯

池田先生尊閣下

54 明治( ) 年三月二四日 (一八九二号)

謹啓時下春暖逐日相催候処、益御勇猛被為遊御起居奉大賀候、陳は過般は浅岡別戸并二家屋相求候等、色々奉煩御高配御添書被成下、千万難有御礼一々紙上二難尽奉謝候、公債之儀も昨朝電報にて御願申上候、愚弟へ御申付御購求被成下候儀と奉拜察候、此藤田治吉と申ものハ当港米商会社之頭取藤田文治と申もの、独子ニ御坐候処、性質沈着家ニ御坐候処、一昨九月乾性脚氣にて心悸亢盛、呼吸息進、四肢萎菲、全歩行スル事克ハス、昨四月比ニ至り治癒ニ赴、漸々歩行も出来候よし、然処昨年四月左胸膜炎ヲ患、六月比ニ至り治癒いたし候、左胸前後共全濁音ニ変シ善良之経過ヲ不遂様子、尚又昨年八月中旬より右胸膜炎ヲ発、其節私診察仕候てサリシル酸曹達、酢酸加里或は沃鉄舎利別、又ハ吐根老里衛・礪砂加茴香精等相用、二ヶ月許ニシテ治癒仕候得共、下肺之下縁ニ濁音ヲ残し候、其節も下肢鈍麻、心悸亢盛之気味ハ少々、常ニ有之候様子、其後少シ之寒冒ニも兎角咳嗽ヲ発、両親も大ニ心配いたし漸々此節

相勸メ出京為致文人之意次第にてハ三ヶ月也半年也入浴等も為致候積ニ御坐候間、先生へ御診察御願申上呉と厚依頼ニ付、何卒よろしく御高診奉煩上候、同人宿は愚弟之近辺之様子故、清同伴可仕候は御高案清へ御申聞被成下度奉希上候、同人父文治ハ荒川太二、鈴木長蔵(6) 奥会副議長ナリ、一昨年頃出京御診察相願候仁、其弟もオセナニて比節御診察御願申居候よしニ伝奉仕候、荒川太二も本月十三日出京仕候、定て御尋申上候筈、

一、誠不珍品ニ御坐候得共、過日鮭巻疋通運へ送り出し置候、清より差上候筈、御叱味被成下候得は本懐之至りニ奉存候、右御願申上度如此御坐候、余は後鴻縷々、恐々頓首々々

三月廿四日

竹山屯

池田謙齋先生閣下

尚々本人儀は壯年故右様之大患ヲ深く不意、両親も心配いたし居候間、撰生嚴重ニ御申付被成下度候、此度道中用葉ハ吐根酒、安息香酸、阿片丁幾、ラウリール相用置候

注

(1) 別戸 別家。

(2) 沃鉄舎利別 ヨード鉄シロップ。

(3) 老里衛 ローリエ、月桂樹。

(4) 茴香精 ウイキョウ油とエチルアルコールを混和した

もの。矯臭・健胃・驅風劑。

- (5) 鈴木長蔵 新潟の回船問屋小川屋に生まれる。明治十二年県議、副議長。明治二十四年新潟市長。のち衆議院議員、新潟商業會議所初代会頭などを歴任。
- (6) オセナ 鼻の病氣。